

Nami-Aru? / Internet

「壁のないサーフィン」
文：ジョージ・カックル

先月、俺は地元の鎌倉ケーブルテレビにインタビューをされた。ライフスタイルや鎌倉の生活、サーフィンに対していろんな質問をされたんだ。そのなかで、俺が住んでいる家のことを聞かれた。住んでいる家は秋田県にあった築130年程の酒蔵。ある人が鎌倉に4年ぐらい前に移築してきたんだ。その一部をうちが借りている。壁は土、柱は栗の木、そして天井には巨大な18メートルの梁（はり）もある。俺は、ワイフと7歳の子どもと3人でそこに暮らしている。蔵のいいところは、なかに壁がないところ。大黒柱もない。上の梁が屋根を支えている。そう、家のなかには天井を支える壁がない。そして、壁がない生活は、家族にも壁をつくらないんだ。俺はインタビューにこたえていて、ふと気づいた。ふつうは、カギを閉めればプライベートな世界に入れるけれど、蔵のなかでは誰がどこにいるか気配でわかる。家のなかには隠しごとはないということだ。カギを閉めて一人になれるプライベートの場所といえばトイレかお風呂場ぐらいだ（笑）。

社会のなかでうまくやっていくためには、いろんな隠しごとがあるよね。これは悪いとは一概にいえな。たとえば、店のオーナーは、お客さんにその商品をいくらで仕入れたなんて言わない。コンペで仕事を取るときも、相手に自分の利益は伝えないよね。スポーツにもある。野球のピッチャーは、バッターに次になにを投げるかは教えられない。野生のなかで暮らす虎も、自分が狙っている獲物に今から殺して食べるぞとは教ええないよね。隠しごとはたくさんある。

でも、壁のない生活だと、その場所にいる家族の間の壁もない。家族がもっと仲良くなれるんじゃないかと思った。壁がない生活。壁のない生活。面白いね。

そこで、俺は考えた。壁のないサーフィンはあるのかなと。海に行きポイントに入ると、そこには他のサーファーたちもはっている。そこに壁はないけれど、なぜかサーファーの間には壁ができていたんだ。同じポイントにいるのに、しゃべりもしない人がいる。たとえ話さなくても、挨拶は必要だよ。海のなかには壁がないのに、なぜ！？ ローカルは、よそ者にガンついたりいじわるしたり、ドロップインしたり、スネイクしたり……。みんなが和気あいあいとできる壁のないサーフィンをしたいね。そのほうがもっと気持ちいいはずなんだ。